

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び】 【V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成】
2 実施対象者	宮古市立山口小学校 第3学年 42名 第4学年 36名 第5学年 42名 第6学年 23名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	2020年に向けて、オリンピック・パラリンピックへの関心を高め、スポーツの価値や効果の再確認を通じて、国際的な視野をもって世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する。 ① スポーツの意義や価値等に対する児童の理解、関心を向上させる。 ② 児童のスポーツへの主体的参加の意識を向上させる。 ③ これからの社会に求められる資質、能力等の育成を図る。
5 取組内容	(1) 事前学習（各2時間） <3・4年> ○オリンピックって何？（オリンピッククイズ） ○オリンピックの歴史 ○日本人の活躍（オリンピック紹介含め）



<5・6年>

- オリンピックって何？（オリンピッククイズ）
- オリンピックの理念と歴史
- 日本人の活躍（オリンピック紹介含め）



総合的な学習の時間の学習として、トピック単元『オリンピック・パラリンピックを学ぼう』を3年生以上の各学年に位置付け一連の学習を展開した。

事前学習においては、導入で、2013年9月のIOC総会において2020年のオリンピック開催地に東京が決定した場面を視聴した後に、オリンピックに関するクイズを出題し、楽しみながらオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めた。さらに、映像資料を用いて、オリンピックの理念や歴史、日本人の活躍などについて学習した。

学習前の実態として、“オリンピックという言葉は聞いたことがあるが、オリンピックとパラリンピックの違いは分からない”“オリンピックのねらいは、世界で一番を決めることだ”という児童が大半であったが、事前学習を通じて、オリンピック、パラリンピックの違いや、オリンピックの理念・これまで歩んできた歴史、日本人の活躍などについて理解を深めることができた。

終末には、本事業の講師であるロンドン五輪銀メダリスト、田中和仁氏の競技場面の動画を視聴し、本事業への意欲を高めた。

※主な指導資料

オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料
公益財団法人 日本オリンピック委員会ホームページ

(2) 本事業

◎田中和仁（ロンドン五輪体操男子団体銀メダリスト）氏による講演と実技指導
＜3・4年＞（実技：1時間）

○マット運動（前転、後転、開脚前転）の指導



＜5・6年＞（講演：1時間）

○「オリンピックに向けての道のりと体操から学んだこと」



3, 4年生は、マット運動の実技を行った。準備運動の後、「前転」「後転」「側転」「開脚前転」をそれぞれの技のポイントを確認しながらの練習。子どもたちは、田中先生の身体の柔らかさや技の美しさに歓声をあげながら、「男の子は、かっこよく。女の子は、美しく。」の心構えを意識して、楽しく学習に取り組んだ。最後に、田中先生から“苦手なことも、とにかくやってみることが大切”という言葉をいただき、チャレンジすることの大切さを学んだ。充実した実技の授業となった。

5, 6年生は、「オリンピックに向けての道のりと体操から学んだこと」と題しての講演を実施した。

「ベストを尽くすこと」「仲間を大切にすること」「感謝の気持ちを忘れないこと」の3つが大切だということを自身の体験を交えながら話していただいた。銀メダルに直接触れる機会をいただいたほか、体操競技の裏話や田中三きょうだいのエピソードなど、貴重な話を聞くこともでき、子供たちにとって有意義な講演会となった。

(3) 事後学習 (各2時間)

<3・4年>

- オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを学ぼう！
～2020東京大会に向けて～
- 東京オリンピック、パラリンピックの実施種目を知ろう
- シットイングバレーボールに挑戦！
- オリンピック、パラリンピックのマスコットを選ぼう



<5・6年>

- オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを学ぼう！
～2020東京大会に向けて～
- 世界に日本をアピールしよう！
- 東京オリンピック、パラリンピックの実施種目を知ろう
- オリンピック、パラリンピックのマスコットを選ぼう



事後学習においては、およそ900日後にせまった東京大会への意識をさらに高めるために、「東京オリンピック開催のねらい」やその達成に向けた活動の紹介、「東京大会の開催種目紹介」、「パラ種目、シッティングバレーボール簡易版の体験（3，4年）」「世界に誇れる日本の魅力を考える（5，6年）学習」を行った。学習後半には、リオ五輪閉会式での次回開催国プレゼンの様子を視聴し、日本開催への盛り上がりを再度味わうことができた。

また、東京オリンピックのマスコット投票を各学級で行うことに触れ、マスコットの仕事や各マスコットの紹介も行った。

(4) 学習のまとめ

＜3年生以上の各学年＞

○マスコット投票に向けた話し合い

○事後アンケートの実施





学習のまとめとして、事後アンケート実施したほか、東京オリンピックのマスコットを選ぶ話し合いを各学級で実施した。5年生は、国語科「すいせんしよう」の単元と関わらせ、東京大会に向けた一人ひとりの思いを推薦文にまとめ、紹介する学習を行った。

6 主な成果

- クイズや映像資料を用いた事前学習により、オリンピック、パラリンピックの理念や歴史についての理解を深めることができた。
- オリンピックによる講演と実技において、一流の選手の考え方や動きを直接見聞きすることで、オリンピックに出場することの大変さやオリンピック選手のすごさを実感させることができた。
- 事後学習においては、日本の魅力を考えたり、パラ競技の一部を体験したりすることを通して、東京大会を実際に見てみたいと思う気持ちを高めることができた。

7実践において工夫した点（事業の特色）

- オリンピック、パラリンピックへの興味や知識のない児童に学習意欲をもたせるために、内容をクイズ形式にしたり、言葉を平易なものに置き換えたりして指導した。
- 学習意欲を持続させるために、短期間で重点的に学習を進めた。
- 学級担任の負担を軽減するために、事前事後の学習はオリパラ担当教員が全学年の授業を行った。

8主な課題等

- 事業が決まったのが年度後半だったため、他教科や領域に関連付けた学習が十分に実施できなかった。
- オリンピックとの事前の打ち合わせができなかったため、講演内容や実技指導の進め方（場の設定等）について、オリンピックの意向を十分に反映させることができなかった。

9来年度以降の実施予定

- オリパラ学習週間（仮）を設定し、道徳の時間や外国語活動の時間などを活用してオリパラ学習の推進を図る。
 <次年度の重点項目>
 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- 「スポーツ笑顔の教室」を開催し、スポーツに関する興味関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図る。

